

富山大学 学報

第257号

目 次

学 長 告 辞..... 2	人 事 異 動.....20
昭和59年度富山大学卒業証書, 修了証書	学 内 諸 報.....25
並びに修士学位記授与式 学長告辞..... 2	人文学部長の改選.....25
関 係 法 令..... 4	学生部長の改選.....25
学 内 規 則..... 5	客員教授 名称付与.....25
富山大学附属図書館閲覧規則の一部改正..... 5	富山新聞文化賞について.....25
富山大学経営短期大学部学則の一部改正..... 6	文部省永年勤続者表彰.....25
富山大学人文学部規則の一部改正..... 6	退職(予定)者を囲む懇談会.....26
富山大学教育学部規則の一部改正..... 7	海外渡航者.....26
富山大学理学部規則の一部改正..... 7	情報処理センターの開所式.....27
諸 会 議..... 8	昭和59年度全国公務員レクリエーション
学 事.....10	共同事業富山地区ボーリング大会.....27
学位取得者.....10	財団等による研究助成関係.....28
昭和60年度文部省在外研究員	職 員 消 息.....31
派遣予定者の決定.....10	主 要 行 事.....34
外国政府等からの留学生等の募集のお知らせ.....10	資 料.....36
昭和60年度富山大学入学者選抜について.....16	昭和59年度卒業(修了)者数.....36
昭和60年度富山大学経営短期大学部	昭和60年度授業日程表.....37
入学者選抜について.....17	昭和59年度富山大学学報目録.....37
昭和59年度富山大学卒業証書, 修了証書	
並びに修士学位記授与式の挙行.....17	

学 長 告 辞

昭和59年度富山大学卒業証書，修了証書 並びに修士学位記授与式 学長告辞

ただいま卒業証書，修了証書あるいは修士学位記を授与されました1,248名にのぼる諸君は，富山大学における諸種の課程を終え，本日ここにめでたく卒業の日を迎えられた方々でありまして，私どもすべての富山大学教職員は，諸君に対して心から祝福申し上げますとともに，可能性に満ちた若い諸君の今後の御発展を大いに期待する次第であります。

諸君はこれまで十数年間という長期にわたって教育を受けてこられたわけですが，何といたっても教育のもつ一面として，ある程度の枠組みにはまった見方，考え方を身につけてこられたのではないのでしょうか。ところが諸君がこれから身を置く現代社会は，激動の社会と呼ばれているように，何事につけ多様化しており，しかもその内容が時とともに急速に変化しつつあります。そのような状況下にあつて，いよいよ船出される諸君は，自分達の社会を向上発展させるための重い責任を背負っているのであります。そこで本日は諸君の立場でどのように対処すればより良い社会をつくることができるかということ，私の専門とする生物学の立場から考えてみたいと思います。

生物の個体は生殖によって増殖してゆくのでありますが，その際遺伝子のレベルでみますと，遺伝子が複製されて殖えてゆく過程では，種々雑多な原因で本来のものとは異なった，エラーを伴った遺伝子をつくってしまうことが時々起ります。しかし，生物細胞内には厳しいチェックシステムができておりまして，遺伝子のエラーを発見すると，あらゆる手段によって，これを本来の姿に修理修復してしまうのであります。これはまさに後に申し上げる完全主義の権化のようなものであります。このような厳密な製品検査に合格した遺伝子が細胞内におさまっていて，秩序ある生命活動を営んでいるのですが，それでも誠に確率は低いのですが，偶にそのチェックシステムの網の目にかからず，エラーが見過されてしまうことがあります。これが突然変異と呼ばれる現象であります。

この突然変異は無方向であつて，子孫の繁栄にプラ

スのものもマイナスのものも同じ確率で起るとされています。一つの生物種に変異が起つたということは，新しい遺伝子が生れたということでありまして，生物の進化を考える上で，この突然変異なしには考えられないのであります。そして一つの種という生物集団に注目した場合，その中に生まれる変異の種類が多ければ多い程，すなわち遺伝子の種類が多ければ多い程，その生物種の進化の可能性が増大するのであります。というのは，その種の置かれた環境がいか様に変化しても，遺伝子の種類さえ多ければ，新しい環境に即応するための自由度（可能性）が高いからであります。

私はいま生物の個体の生き方と，集団の生き方について述べたのでありますが，人類のような生物の社会の動きについても，全く同様のことが言えそうであります。ここで社会といっても，家庭から職場，地域そして国家，世界と広げればいくらかでも広がりますが，まず差し当たって諸君にとって身近な家庭や職場を考えましょう。さて，われわれ一人一人が集って社会を構成しており，その一人一人の考え方が少しずつ異なつていても，その社会には一つの秩序のようなものができています。ところが，あの戦前にわが国が経験したように，特殊な教育によって国民のほとんどを一つの考え方にまとめあげてしまった結果，社会全体は特殊な秩序形態をとることとなり，その後ついに戦争という混乱の極限状態にまで落ち込んでしまったのであります。このようにみますと，さきに進化の要因は変異であることを指摘しましたように，社会を構成する個人個人の考え方が種々様々であった方が，いずれはその社会の繁栄につながつてゆくものと考えられるのであります。

私は以前の入学式の際に，格ということについて話しました。格というのは格式が高いとか，本格的とかいうときの格のことでありまして，何かきまりのようなもので，一つの秩序のようなものであります。一つの社会にはこの格というものがあつて，これを大きくはみ出した場合には，その社会からはじき出される仕

組みになっています。しかし一つの社会の格は、必ずしもその時代時代に完全に適応したものであるかどうかはわかりません。諸君の役割はその点をよく見極めて、その格を少しずつ変えてゆくことにあるのではないのでしょうか。昔から「格に入って格を出よ」という



言葉がありますが、この言葉は格というものは時とともに少しずつ移り変ってゆくべきものであり、そのためにはその社会の構成員の一人一人がこのように心懸けるべきことを諭した言葉であると思います。すなわち諸君の一人一人が、これまで身につけてきたある程度画一的な物の見方、考え方から脱却して、物事をできるだけ多角的にみるようにつとめ、他人の考えないようなこと、他人のやらないようなことをするようになれば、結果的に社会の格は次第に向上発展することが期待されるのであります。

最近私は、本学工学部を今年停年退官される高橋幸一教授の最終講義の記録を拝見して、感激を覚えました。先生は本学にこられる前に、ある自動車会社の研究スタッフとして永年活躍された経歴の持主ですが、先生は日本の自動車産業が、先進アメリカの自動車産業に追い付け追い越せの時代に、まさにその修羅場を経験された方です。それだけにアメリカの技術者が全くはじめてから自力で、日本の何倍、何十倍もの時間と労力をかけて、多くの問題にチャレンジして、その一つ一つを解決してきたという底力を、先生は身をもって知り、これにどうしたら勝てるかを考え通してこ

られたのであります。その苦労話が最終講義録の端々に出ており、私は身につまされる思いでそれを読ませていただいたのであります。

一つの社会の格を築き上げるための苦労というのは、その自動車産業の発展過程にもみられるように計り知れないものがあります。その過程で先人達が苦勞して蓄積してきた経験程貴重なものではありません。恐らく諸君はまずそれを学びとることからはじめなければなりません。これが格に入るということです。それを本気で学習した時点で、それまでのやり方に問題点のあることに気付くことになるでしょう。こうしてまず問題意識をもつことが事始めとなると思います。そこでさきに述べたように人の考えないようなこと、人のやらないようなことといった、自分のやるべきことがわかってくるのではないのでしょうか。これが格を出るといことになりましょう。

とにかく日常の仕事に当たっては、常に本物を指向して下さい。この程度でよかろうといういい加減な気持は捨てて下さい。何事も完全主義に徹してほしいと思います。現在わが国の自動車産業をはじめ、電子機器産業やロボット産業など、世界から目の敵にされている数多くの産業がここまで発展してきた蔭には、本物を指向して完全主義を全うするという、血のにじむような努力が結集したからに他なりません。どうか諸君も先人達に見習って大きな仕事を成し遂げて下さい。

本日私は生物の進化の仕組みのアナロジーとして、人間社会の向上発展へのすべを考えてみました。私の話がどれだけお役に立つかわかりませんが、諸君には大きな責任が負わされているということだけは自覚して下さい。そしてやがて諸君が年老いて自らの人生を振り返った時、自身の努力によって築き上げた社会の発展の跡をみることができたならば、恐らく何とも言えない、人間としての最高のロマンを味わうことができるでしょう。どうか皆さん、これからの長い人生に悔いを残すことのないよう、一生を通じて健康で大いに頑張り通して下さい。これをもって卒業生諸君への私のはなむけの言葉とします。

昭和60年3月25日

富山大学長 柳田友道

関係法令

(官報掲
載月日)

(官報掲
載月日)

法律

- 国家公務員等退職手当法の一部を改正する法律(4) 3・30
- 供託法の一部を改正する法律(5) 3・30

政令

- 国家公務員等共済組合法施行令の一部を改正する政令(46) 3・29
- 勤労者財産形成促進法施行令の一部を改正する政令(49) 3・29
- 国家公務員等退職手当法施行令の一部を改正する政令(56) (号外) 3・30
- 国家公務員及び公共企業体職員に係る共済組合制度の統合等を図るための国家公務員共済組合法等の一部を改正する法律附則第35条第2項の規定等に基づき行う負担金の額の調整等に関する政令(68) (号外) 3・30
- 学校教育法施行令の一部を改正する政令(70) (号外) 3・30
- 国立学校設置法施行令の一部を改正する政令(72) (号外) 3・30
- 学校保健法施行令の一部を改正する政令(73) (号外) 3・30
- 国立学校設置法附則第3項の定員に付加すべき定員を定める政令(74) 4・1

府令

- 人事記録の記載事項等に関する総理府令の一部を改正する総理府令(総理9) 3・28
- 退職勧奨の記録に関する総理府令(総理11) (号外) 3・30

省令

- 国際電子郵便の取扱いに関する省令の一部を改正する省令(郵政3) 3・4
- 支出官事務規程等の一部を改正する省令(大蔵10) 3・28

- 国家公務員等共済組合法施行規則の一部を改正する省令(大蔵11) 3・30
- 通算年金通則法の規定による通算対象期間の確認に関する省令の一部を改正する省令(大蔵・文部・厚生・農林水産・自治1) 3・30
- 日本学校健康会法施行規則の一部を改正する省令(文部3) 3・30
- 文部省定員規則の一部を改正する省令(文部8) 4・1
- 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(文部9) 4・1
- 教育公務員特例法施行令第1条の規定に基づき大学院に置かれる研究科の長を定める省令の一部を改正する省令(文部10) 4・1
- 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令(文部11) 4・1
- 教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令(文部12) 4・1
- 国立学校における授業料その他の費用に関する省令の一部を改正する省令(文部13) 4・1

規則

- 人事院規則14-4(営利企業への就職)の一部を改正する規則(人事院14-4-1) (号外) 3・30
- 人事院規則17-0(管理職員等の範囲)の一部を改正する規則(人事院17-0-1) (号外) 3・30
- 人事院規則9-1(非常勤職員の給与)の一部を改正する規則(人事院9-1-1) 4・1
- 人事院規則9-17(俸給の特別調整額)の一部を改正する規則(人事院9-17-

	(官報掲 載月日)	(官報掲 載月日)
1)	4・1	告 示
○人事院規則9-30(特殊勤務手当)の一部を改正する規則(人事院9-30-1)	4・1	○国際電子郵便の取扱地域及び取扱郵便局並びに名あて地における国際電子郵便物の配達方法を定める件の一部を改正する件(郵政128)
○人事院規則9-40(期末手当及び勤勉手当)の一部を改正する規則(人事院9-40-1)	4・1	3・4
○人事院規則9-49(調整手当)の一部を改正する規則(人事院9-49-1)	4・1	○無線従事者国家試験の一部を免除する学校等として認定した件の一部を変更する件(郵政170, 171)
○人事院規則9-55(特地勤務手当等)の一部を改正する規則(人事院9-55-1)	4・1	3・14
○人事院規則9-2(俸給表の適用範囲)の一部を改正する規則(人事院9-2-1)	4・1	○昭和60年度大学入学資格検定の施行期日等を告示する件(文部38)
○人事院規則9-6(俸給の調整額)の一部を改正する規則(人事院9-6-1)	4・1	3・25
○人事院規則16-3(災害を受けた職員の福祉施設)の一部を改正する規則(人事院16-3-1)	4・1	○大学院及び大学院の研究科の設置を許可した件(文部39)
		3・27
		○短期大学の廃止を認可した件(文部40)
		3・27
		○国立の義務教育諸学校等の児童生徒等についての災害共済給付に係る昭和57年度以後の共済掛金の額のうちその保護者等から徴収する額を定める等の件の一部を改正する件(文部42)
		3・30

学 内 規 則

富山大学附属図書館閲覧規則の一部改正

富山大学附属図書館閲覧規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和60年3月5日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学附属図書館閲覧規則の一部を改正する規則

富山大学附属図書館閲覧規則(昭和33年11月18日制定)の一部を次のように改正する。

第5条中「学生はこれに学生証を添えて提出し、職員は身分証明書を提示するものとする。」を「図書館利用証を添えて提出するものとする。」に改める。

第6条中「原則として学生は2冊以内、職員は5冊以内とし、」を「原則として5冊以内とし、」に改める。

第7条中「学生証又は身分証明書」を「図書館利用証」に改める。

第8条中「学生はこれに図書帯出券を添えて提出し、

職員は身分証明書を提示するものとする。」を「図書館利用証を添えて提出するものとする。」に改める。

第9条中「2冊」を「5冊」に、「1週間」を「2週間」に改める。

第19条(見出しを含む)中「図書帯出券」を「図書館利用証」に改める。

第25条を第26条とし、第24条を第25条とし、第22条及び第23条中「図書帯出券」を「図書館利用証」に改め、第23条を第24条とし、第22条を第23条とする。

第21条中「図書帯出券の有効期限は、1年とする。」

を「図書館利用証の有効期限は、学生については修業年限とし、職員については6年とする」に改め、同条を第22条とする。

第20条中「図書帯出券」を「図書館利用証」に改め、同条を第21条とし、第21条の前に次の1条を加える。

第20条 図書館利用証の交付を希望する者は、学生は学生証を、職員は身分証明書を提示の上、図書館利用証交付請求書により申請するものとする。

附 則

- 1 この規則は、昭和60年4月1日から施行する。
- 2 工学部分館の図書利用については、なお従前の例による。

▶富山大学附属図書館閲覧規則の改正理由
 図書閲覧業務の電算化を図るため、所要事項を改める。

富山大学経営短期大学部学則の一部改正

富山大学経営短期大学部学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

昭和60年3月7日

富山大学経営短期大学部学長 柳 田 友 道

富山大学経営短期大学部学則の一部を改正する学則

富山大学経営短期大学部学則（昭和34年4月1日制定）の一部を次のように改正する。

別表の専門教育科目・経営管理専攻・経営学及び簿記会計学系の表中

経 営 情 報 論			2	を に
経 営 情 報 論			4	

改める。

附 則

この学則は、昭和60年4月1日から施行する。

▶富山大学経営短期大学部学則の改正理由
 情報処理センターを利用し、教育内容の充実を図るため、所要事項を改める。

富山大学人文学部規則の一部改正

富山大学人文学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和60年3月12日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学人文学部規則の一部を改正する規則

富山大学人文学部規則（昭和52年5月16日制定）の一部を次のように改正する。

別表第1の人文学科の表中

視 聴 覚 教 育	2	の次に を加える。
計 算 機 実 習	1	

「 フランス文学講読 2 」の次に

「 計 算 機 実 習 1 」を加える。

附 則

この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

▶富山大学人文学部規則の改正理由
 時代に即応した授業科目を新設し、教育内容の充実を図るため、規則の一部を改める。

別表第1の語学文学科の表中

富山大学教育学部規則の一部改正

富山大学教育学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和60年3月12日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学教育学部規則の一部を改正する規則

富山大学教育学部規則（昭和27年4月18日制定）の一部を次のように改正する。

第20条の次に次の1条を加える。

（他の学部学生に係る開設教職科目）

第21条 他の学部学生の教員免許状取得に係る開設教職科目は、別表Xに示すとおりとする。

（別表Xは、別紙のとおり）

別表Ⅲの家庭専攻の授業科目の欄中「育児学Ⅱ」を「×育児学Ⅱ」に改める。

同表の教育心理学専攻中

発達心理学各論	2		2
---------	---	--	---

を

発達心理学各論	2		2
発達心理学特別講義	2		2

に、

計	90	30	16
		46	

を

計	92	30	16
		46	

に改

める。

別表Ⅵの標題を次のように改める。

別表Ⅵ 職業指導及び保健の各免許状取得のための開設授業科目

同表中

保健			
	衛生学	運動衛生学	2
ドイツ語		ドイツ語科教育法ⅠⅡⅢ	3
計			27

を

保健			
	衛生学	運動衛生学	2
計			24

に改

める。

附 則

この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

別紙

別表X

ドイツ語及び中国語の各免許状取得に係る開設教職科目

免許状の種類	教 職 科 目	開設単位
ドイツ語	ドイツ語科教育法ⅠⅡⅢ	3
中国語	中国語科教育法ⅠⅡⅢ	3

▶富山大学教育学部規則の改正理由

- 1 教育心理学専攻に授業科目及び単位数を新設し、また、家庭専攻に基本科目を加えて教育内容の充実を図るため。
- 2 他の学部学生に係る開設教職科目に関する条文を定めるほか、別表を整備する。

富山大学理学部規則の一部改正

富山大学理学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和60年3月12日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学理学部規則の一部を改正する規則

富山大学理学部規則（昭和52年5月16日制定）の一部を次のように改正する。

別表の物理学の関連選択科目の欄中

「|一般地質学| 2 |」の次に

基礎地球物理学	2	を加え、
基礎地質学	2	
基礎地球化学	2	
基礎雪氷学	2	
計	40	」を
計	48	」に改める。

同表の化学科の関連選択科目の欄中

地球科学実験	1	」の次に
基礎地球物理学	2	を加え、
基礎地質学	2	
基礎地球化学	2	
基礎雪氷学	2	
計	29	」を
計	37	」に改める。

同表の生物学科の専攻科目の欄中

発生学実験	1	」の次に
生物学特別講義	※	」を加え、
関連選択科目の欄中		
古生物学	2	」の次に
基礎地球物理学	2	を加え、
基礎地質学	2	
基礎地球化学	2	
基礎雪氷学	2	
計	25	」を
計	33	」に改め、

欄外中

「卒業に必要な単位数」を

「※印を付した生物学特別講義の単位数は、必要に応じて定める。
卒業に必要な単位数に改める。

同表の地球科学科の専攻科目の欄中

地球物理学特論	2	」の次に
基礎地球物理学	2	」を、
地質学特論	2	」の次に
基礎地質学	2	」を、
地球化学特論	2	」の次に
基礎地球化学	2	」を、
雪氷学特論	2	」の次に
基礎雪氷学	2	」を、
雪氷学実験	2	」の次に
地球科学特別講義	※	」を加え、
計	35	69」を
計	35	77」に改め、

欄外中

「卒業に必要な単位数」を

「※印を付した地球科学特別講義の単位数は、必要に応じて定める。
卒業に必要な単位数に改める。」

附 則

この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

▶富山大学理学部規則の改正理由

授業科目及び単位数を新設し、教育内容の充実を図るため、規則の一部を改める。

諸 会 議

第3回学長選考管理委員会（3月1日）

第3回学長候補適任者選定委員会（3月12日）

昭和59年度第6回大学院委員会（3月12日）

（審議事項）

- (1)昭和59年度富山大学大学院理学研究科（修士課程）及び工学研究科（修士課程）修了者の認定について

て
（その他）

- (1)人文学研究科についての報告

昭和59年度第11回評議会（3月12日）

（報告事項）

- (1)昭和59年度富山大学大学院理学研究科（修士課程）及び工学研究科（修士課程）修了者の認定について

- (2)国大協理事会について
- (3)教官人事について（人文学部，工学部）
- (4)学生の動向について

（審議事項）

- (1)昭和60年度富山大学入学者選抜試験合格者の判定について
- (2)昭和59年度卒業生及び修了者の認定について
- (3)富山大学人文学部規則の一部改正（案）について
- (4)富山大学教育学部規則の一部改正（案）について
- (5)富山大学理学部規則の一部改正（案）について
- (6)次期学生部長候補者の選考について
- (7)学長選挙投票日の授業について

昭和59年度第2回低温液化室運営委員会（3月14日）**（審議事項）**

- (1)室長の推薦について

第47回構内交通対策委員会（3月14日）**（審議事項）**

- (1)工学部五福キャンパス内における駐車計画について
- (2)メインストリートの通行について

第3回情報処理センター運営委員会（3月15日）**（報告事項）**

- (1)整備状況及び利用状況について
- (2)教育利用専門委員会について
- (3)研究開発専門委員会について
- (4)センター員の推薦について
- (5)開所式について
- (6)パンフレットの発行について
- (7)営繕工事の要求について
- (8)情報処理センターの門標について

（審議事項）

- (1)新年度からの運営について

昭和59年度第7回入学者選抜方法研究委員会専門委員会（3月19日）**（議 題）**

- (1)入学者選抜方法の改善に伴う昭和58年度以降の調査研究事項について

昭和59年度第2回廃水処理室運営委員会（3月22日）**（審議事項）**

- (1)廃水処理室運営委員長の交替について

第4回学長候補適任者選定委員会（3月27日）**昭和59年度第6回事務協議会（3月28日）****（議 題）**

- (1)当面の諸問題について

◎ 構内での自動車等の運転は、教育・研究に支障を来さないよう安全運転に努め定められた交通方法、歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう！！



学 事

学 位 取 得 者

取得者	教育学部 助教授 山野井 敦徳	用する新方式パルスポーラグラフィ
学位の種類	教育学博士（広島大学）	一の分析化学的研究
取得年月日	昭和60年2月20日	
学位論文名	大学教授の社会移動に関する研究	取得者
		理学部 助教授 東川 和夫
		学位の種類
		理学博士（東北大学）
取得者	教育学部 助手 原 稔	取得年月日
		昭和60年3月12日
学位の種類	理学博士（北海道大学）	学位論文名
		The Bergman Metric of a Bounded
取得年月日	昭和60年3月25日	Domain （有界領域のベルグマン計
学位論文名	アノーディック・ストリッピングを利	量に関する研究）

昭和60年度文部省在外研究員派遣予定者の決定

種 類	部局名	職 名	氏 名	主たる滞在地名及び 当該滞在地の属する国名	調 査 研 究 題 目	派 遣 期 間
長期(甲)	経済学部	助教授	増 田 信 彦	ケンブリッジ (連合王国)	枯渇性資源の経済理論	10 ^月
	理学部	助 手	飯 田 敏	スタンフォード (アメリカ合衆国)	X線及び中性子線回折による物性研究	10
	工学部	助教授	松 木 賢 司	ケルン (ドイツ連邦共和国)	高力アルミニウム合金の結晶粒微細化 と超塑性に関する研究	10
短 期	経済学部	教 授	武 暢 夫	ロンドン (連合王国)	近世初期におけるイギリス農業発展の 比較史的研究	2
	教養部	〃	世 利 幹 雄	フランクフルト (ドイツ連邦共和国)	西ドイツ及びイギリスの統計制度・調 査史の研究	2

外国政府等からの留学生等の募集のお知らせ

毎年、外国の政府・研究機関・団体等から留学生・研究員等の募集が数多く行われ本学にも多くの通知が入っていますが、参考までに昭和59年度に通知のあったものをまとめてみました。

なお、これらの募集通知については、毎年一定しているものでなく、その年度によって若干の変更あるいは募集しないものもあり、またこの外にも各種財団等

から募集がある場合もありますので、この点お含みおきの上参考にして下さい。

募集要項等の詳細は、各部局の庶務（総務）係にお問い合わせ下さい。

関係国	名 称	募集人員	専 攻 分 野	応募資格 (共通事項) ・日本国籍を有する者 ・十分な外国語の能力を有する者 ・心身ともに健康な者	待 遇	関係機関 (募集通知時期)
アイルランド	アイルランド政府奨学金留学生	1名	制限なし	・大学卒業者	・期間 8月 ・奨学金 月額 250アイルランドポンド ・授業料, 登録料支給	(財)日本国際教育協会留学相談センター (3月)
アジア諸国 (インドネシア、バングラデシュ、スリランカ、インドネシア、大韓民国、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、モンゴル、コトエジプト、中東、香港)	アジア諸国等派遣留学生	9名程度	留学対象国の言語, 歴史, 文化又は社会の分野 (ビルマは言語の分野のみ)	・大学院博士課程若しくは修士課程に存学している者又は大学を卒業後研究に従事している者 ・35歳未満の者	・期間 2年 ・奨学金 月額 100,000円 ・一時金 年額 30,000円 ・往復航空賃支給	文部省学術国際局留学生課 (1月)
アメリカ合衆国	N I H 奨励研究員	6名	医学, 生物学, 生化学, 生理学, 歯学, 薬学及び獣医学等関連分野	・博士号取得者 ・35歳以下の者	・期間 1年 ・滞在費 年額 18,000~22,000ドル ・往復旅費支給	日本学術会議 (1月)
	大学院留学プログラム		人文科学, 社会科学, 自然科学, 応用科学 (米国の研究, 日本の研究, 太平洋地域の政治・経済関係, 現代技術社会の諸問題, 教育の国際化の領域が望ましい。)	・大学院学生, 若手大学教員を対象とする。 ・大学卒業者 (博士号を有する者を除く。) ・34歳以下の者優先	・期間 1年 ・往復旅費 } 支給 ・生活費 } ・授業料 } ・家賃等 }	日米教育委員会 (3月)
	若手研究員プログラム		同 上	・4年制大学の専任の助教授, 講師又は助手を対象とする。 ・3ヵ月以上継続した渡米経験のない者 ・40歳以下の者優先	・期間 9月 ・往復旅費 } 支給 ・生活費 } ・家賃等 }	
	上級研究員プログラム		人文・社会科学分野	・4年制大学の専任の教授又は助教授を対象とする。 ・米国人との共同研究を特に奨励 ・55歳以下の者優先	・期間 3~9月 ・往復旅費 } 支給 ・生活費 } ・家賃等 }	
	大学教員を対象とした旅費支給奨学金		人文科学, 社会科学, 自然科学, 応用科学	・4年制大学の専任教員で, 米国高等教育研究機関から招へいを受けている者 ・55歳以下の者優先	・往復旅費支給	
イスラエル	イスラエル政府奨学金留学生	若干名	制限なし	・大学卒業者 (含む見込者) ・35歳未満の者	・期間 9月 ・奨学金 月額 250ドル ・授業料免除	(財)日本国際教育協会留学相談センター (12月)

イタリア	イタリア政府奨学金留学生	17名	人文学部、社会科学、自然科学、芸術（美術、音楽等）	・大学卒業者	・期間 1学年（場合によっては2学年） ・滞在費 月額 450,000リラ ・往復航空券支給 ・健康傷害保険料支給	(財)日本国際教育協会留学相談センター (3月)
インド	インド政府奨学金留学生	6名	人文学部、社会科学、自然科学、芸術	・大学卒業者（含む見込者）	・期間 2年 ・滞在費 月額 600～750ルピー ・書籍代支給 ・授業料、受験料等納付金免除	同上 (1月)
オーストリア	オーストリア政府奨学金留学生	4名	人文学部、社会科学、自然科学	・大学の学部2年次修了以上の学歴を有する者 ・20歳以上35歳以下の者	・期間 9月 ・奨学金 月額 5,000～6,500オーストリアシリング ・渡航費一部補助	同上 (12月)
カナダ	カナダ大学院留学	約5名	・人文・社会科学におけるカナダ研究及びカナダ比較研究 ・カナダの音楽、美術、工芸、建築、彫刻、デザイン及び芸術理論	学位奨学金 カナダの大学院の修士又は博士課程で研究を希望する35歳までの学士号又は修士号の取得者（取得予定者を含む。）	・期間 1年 ・往復航空賃支給 ・支度金、授業料支給 ・毎月600ドルの経費と生活費、医療保険費支給	カナダ大使館 (6月)
				研究奨学金 大学院の修士又は博士課程に在籍する35歳までの者で課程修了のためカナダの大学院へ留学を希望する者	・期間 8月～1年 ・往復航空賃支給 ・支度金、授業料支給 ・毎月600ドルの経費と生活費、医療保険費支給	
				研究資金 博士号又は同等の学問的地位の取得者 芸術家の場合は長年一流の芸術家として活動を続けている者	・期間 4月～1年 ・往復航空賃支給 ・支度金支給 ・毎月1,200ドルの研究費と生活費、医療保険費支給	
スイス	スイス政府奨学金留学生	3名	人文学部、社会科学、自然科学、芸術	・大学院在学者又は大学卒業後大学で教育・研究に従事している者 ・35歳未満の者	・期間 9月（1年の延長が認められることもある） ・奨学金 月額 900～1,100スイスフラン ・授業料免除 ・図書費、研究費の補助 ・疾病、傷害保険付保 ・帰国旅費支給	(財)日本国際教育協会留学相談センター (10月)
スウェーデン	スウェーデン政府奨学金留学生	1名	人文学部、社会科学、自然科学	・大学卒業者（含む見込者）	・期間 8月 ・奨学金 月額 3,270スウェーデンクローネ ・登録料免除 ・傷害保険付保 ・渡航費一部補助	同上 (12月)
	Swedish Institute 奨学金留学生		スウェーデン以外の国においては、十分な研究ができない分野	・年令制限なし	・期間 3～4月から3学年以内 ・奨学金 月額 3,270スウェーデンクローネ	Swedish Institute (9月)

タイ	タイ政府奨学金留学生	フェロ シップ 6名 スカラ シップ 4名	人文科学, 社会科学, 自然科学, 美術	<ul style="list-style-type: none"> ・フェロシップ 大学卒業者(含む見込者) ・スカラシップ 高校卒業者(含む見込者)で30歳を超えない者 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェロシップ 期間 1年 給費 年額 4,000バーツ ・スカラシップ 期間 1~6年 給費 年額 20,000バーツ 	(財)日本国際教育協会留学相談センター (1月)
大韓民国	大韓民国政府奨学金留学生	3名	人文科学, 社会科学, 自然科学	<ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業者 ・35歳未満の者 ・韓国の大学に入学したことのない者 ・大韓民国政府奨学金を受けたことのない者 ・単身で渡航できる者で, 韓国に配偶者が住んでいないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 修士課程 2年 博士課程 3年 ・奨学金 月額 300,000ウォン ・往復航空券支給 ・入学金, 授業料免除 ・傷害保険料支給 	同上 (3月)
チェコスロバキア	チェコスロバキア政府奨学金留学生	4名	人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・大学卒業者 ・35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 2年 ・奨学金 月額 1,400チェコクラウン ・医療費支給 	チェコスロバキア大使館 (6月)
中国	高級進修生	60名	現代中国語, 中国語, 中国文学, 中国歴史, 哲学, 中国哲学史, 政治経済学, 考古学, 中国画, 書法, 中国美術史, 中国戯曲史, 民族音楽理論, 民族器楽演奏, 建築学, 薬学, 医学, 中国医学等	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として大学院に在籍する者又は大学卒業後研究教育に従事している者 ・35歳以下の者 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 1年程度 ・奨学金 月額 140元 ・学費, 宿舎費, 医療費免除 	(財)日本国際教育協会留学相談センター (3月)
	普通進修生		同上	同上 (大学の3年次以上に在籍している者も可)	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 1~2年程度 ・奨学金 } 同上 ・学費等 } 同上 	
	中国自費留学生	若干名	同上	同上	自費	
デンマーク	デンマーク政府奨学金留学生	<ul style="list-style-type: none"> ・研究奨学金 5名 ・学部奨学金 2名 	人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・研究奨学金 大学卒業者(含む見込者) ・学部奨学金 大学3年次以上在学者 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 8月 ・奨学金 月額 研究奨学金 3,671デンマーククローネ 学部奨学金 3,182デンマーククローネ ・帰国旅費一部補助 ・健康保険付保 	同上 (12月)
ドイツ連邦共和国	奨学金留学生 ドイツ学術交流会(DAAD)	25名	人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術(音楽, 美術)	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和27年10月2日以後に出生の者 ・人文・社会科学専攻 原則として修士課程在学者又はそれ以上の学歴を有する者 ・自然科学専攻 修士課程修了者(含む見込者)ただし, 医学・歯学専攻は学部卒業者でよい。 ・音楽専攻 学部3学年在学以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 1年 ・給費 月額 830~940ドイツマルク (場合によっては, 1,400ドイツマルク) ・家旅手当 ・支度料 ・保険料 ・専門書籍代 ・往復旅費 ・入学金, 授業料, 実験費免除 	同上 (8月)

	奨学金特別給付計画に基づく奨学生	大学教員 約4名 大学院在学者 約4名	ドイツ語、ドイツ文学	・33歳未満の者 ・ドイツ語、ドイツ文学を専攻する大学院修士課程以上の修了者で大学においてドイツ語、ドイツ文学の教育を担当し、帰国後もとの職務に復しうる者(同大学院の在学者を含む。)	・期間 1年 ・奨学金 月額 830~940ドイツマルク(場合によっては、1,400ドイツマルク) ・家族手当 ・支度料 ・保険料 ・荷物運賃 ・書籍購入費 ・往復航空運賃	文部省学術国際局国際教育文化課 (9月)
	ドイツ語担当教員のドイツ派遣	15名	ドイツ語教育	・国立の大学等においてドイツ語教育を担当する者 ・30歳以上50歳以下の者 ・最近3年以内にドイツにおいて研究に従事又は研修を受けたことのない者(私費を除く。)	・期間 3月 ・滞在費及び研修経費支給 ・往復航空賃支給	同 上 (12月)
トルコ	トルコ政府奨学金留学生	7名	トルコ語、トルコ文学、歴史、地理、美術、農学	・大学卒業生 ・40歳以下の者	・期間 8月 ・奨学金 月額 50,000トルコリラ	(財)日本国際教育協会留学相談センター (3月)
ノルウェー	ノルウェー政府奨学金留学生	1名	ノルウェー語、ノルウェー文学、歴史、法律、民俗学、博物学(植物学、動物学、地学)、地理学、経済学	・20歳以上35歳以下の者 ・大学3年次以上	・期間 9月 ・滞在費 月額 3,600ノルウェークローネ ・授業料免除 ・着後手当 ・書籍手当	同 上 (1月)
ハンガリー	ハンガリー政府奨学金留学生	4名	人文科学、社会科学、自然科学、芸術	・大学卒業生 ・35歳未満の者	・期間 18月 ・奨学金 月額 4,000フォリント ・宿舍提供 ・医療費無料 ・国内研究旅費支給	同 上 (5月)
フィンランド	一般奨学金	2名	同 上	・大学卒業生(含む見込者)	・期間 4~9月 ・奨学金 月額 1,300~1,700マルカ ・授業料免除	同 上 (11月)
	フィンランド語、フィンランド文化研究のための特別奨学金		フィンランド語、フィンランドの歴史、考古学、民族学、文学、政治学等フィンランドの文化に関する研究	同 上 ・大学院レベルの学生が優先	・期間 3~9月 ・奨学金 月額 1,700マルカ	
フランス	フランス政府給費留学生		文学、人文・社会科学、自然科学、医学、農学、工学、海洋学、建築と都市工学、音楽	・大学卒業生(含む見込者) ・第一部門(文学、語学)30歳未満、ただし現在フランス語の教職にあるか将来その予定であり、外国語としてのフランス語教育法を学ぼうとする者は40歳未満 ・第二部門(人文・社会科学)及び第	・期間 9月 ・給費 月額 2,050~3,000フラン ・帰国旅費支給 ・授業料支給	フランス大使館 (7月)

				三部門（自然科学、医学、農学、工学、海洋学、建築と都市工学）の者は40歳未満 ・音楽関係者受験者は、フランス大使館文化部に年齢制限規定を問合わせる。		
ベルギー	ベルギー政府奨学金留学生	8名程度	哲学、歴史学、文献学、社会学、心理学、教育学、法学、政治学、経済学、数学、物理学、化学、地質学、地理学、生物学、動物学、植物学、医学、獣医学、薬学、工学、農学、芸術	・大学卒業者 ・35歳未満の者	・期間 1学年 ・奨学金 月額 14,000ベルギーフラン ・帰国旅費支給 ・授業料等支給 ・図書教材費支給 ・国内研究用鉄道無料切符交付 ・傷害疾病保険付保	(財)日本国際教育協会留学相談センター (5月)
ポーランド	コペルニクス・フェローシップ	10名	天文学、物理学、数学、哲学、社会学、経済学、科学史	・大学卒業者	・期間 12月以内 ・奨学金 月額 9,300~10,375ズロティ ・宿舍費、食費支給 ・授業料、医療費免除	同上 (1月)
	スラブ研究フェローシップ	5名	ポーランドの哲学やポーランド文化の広い範囲の分野におけるスラブ研究	同上	同上	
メキシコ	メキシコ政府奨学金留学生	5名	メキシコの大学で専攻が可能な分野(医学を除く。)	・大学卒業者(含む見込者) ・35歳未満の者 ・単身でメキシコに渡航、滞在できる者	・期間 1学年 ・滞在費 月額 35,000メキシコペソ ・大学登録料 } 支給 ・図書費 } ・傷害等保険付保 ・往復渡航費支給	同上 (12月)
ユーゴスラビア	ユーゴスラビア政府奨学金留学生		人文科学、社会科学、文化(ユーゴスラビアの大学で受入れ可能な分野)	・大学卒業者(含む見込者) ・40歳未満の者	・期間 3~9月 ・奨学金 月額 13,000ディナール(学生寮に入る場合は10,000ディナール) ・書籍購入費 } 支給 ・国内研修旅費 }	同上 (11月)
連合王国	ブリティッシュ・カウンシル給費留学生	10数名	制限なし(英国の現代社会についての理解及び日英関係の発展に寄与すると判断される分野が優先)	・大学卒業者 ・25歳以上36歳未満の者	・期間 9~12月 ・滞在費 月額 291ポンド ・往復旅費	ブリティッシュ・カウンシル (6月)
	国立大学等英語教育担当教員の連合王国派遣	約8名	英語教育	・国立大学等において英語教育を担当する専任教員 ・30歳以上50歳以下の者 ・最近5年以内に連合王国又はアメリカ合衆国において研究に従事又は研修を受けたことのない者	・期間 約2月 ・滞在費支給 ・往復航空賃支給	文部省学術国際局国際教育文化課 (1月)

昭和60年度富山大学入学者選抜について

—実施状況—

昭和60年度富山大学第2次入学試験は、去る3月4日(月)5日(火)両日にわたり実施されました。

志願者は3,600名で、県内高等学校出身者1,765名(男子1,010名、女子755名)で全体の49%、現役は2,726名(男子1,774名、女子952名)で全体の76%でした。また、合格者の発表は、3月13日(火)午前9時

五福地区及び工学部で行われ、合格者1,187名の内訳をみると県内高等学校出身者700名(男子387名、女子313名)で全体の59%であり昨年を若干上回りました。

なお、理学部物理学科において第2次募集(入学定員10名を留保)が実施され、合格者の発表は、3月29日(金)午後4時五福地区で行われました。

—選抜状況—

学部	学科(課程)	募集人員	志願者数	受験者数	欠席者(1部含む)	合格者数
人 文	人文学科	90	270	258	12	90
	語学文学科	80	208	192	16	80
	計	170	478	450	28	170
教 育	小学校教員養成課程	140	305	301	4	140
	中学校教員養成課程	50	183	174	9	50
	養護学校教員養成課程	20	58	55	3	20
	幼稚園教員養成課程	30	123	115	8	30
	計	240	669	645	24	240
経 済	経済学科	120	390 (13)	370 (13)	20 (0)	120 (6)
	経営学科	120	573 (15)	537 (14)	36 (1)	120 (5)
	経営法学科	60	293 (2)	272 (2)	21 (0)	60 (1)
	計	300	1,256 (30)	1,179 (29)	77 (1)	300 (12)
理	数学科	40	59	56	3	40
	物理学科	40	113 (63)	110 (63)	3	40 (10)
	化学科	40	58	57	1	41
	生物学科	30	71	71	0	31
	地球科学科	30	74	74	0	30
	計	180	375	368	7	182
工	電気工学科	50	94	91	3	50
	工業化学科	45	206	201	5	45
	金属工学科	40	138	134	4	40
	機械工学科	50	155	152	3	50
	生産機械工学科	40	116	112	4	40
	化学工学科	40	113	108	5	40
	電子工学科	40	63	62	1	40
	計	305	885	860	25	305
合 計		1,195	3,663	3,502	161	1,197

注： 経済学部の()内は推薦入学志願者数・受験者数・欠席者・合格者の内数を示す。

理学部物理学科の()内は第2次募集入学志願者数・受験者数・合格者の内数を示す。

昭和60年度富山大学経営短期大学部入学者選抜について

—実施状況—

昭和60年度富山大学経営短期大学部の入学者選抜は、去る2月17日(日) (推薦志願者選抜試験)、3月17日(日) (一般試験・2年次編入学試験)に実施されました。

推薦志願者選抜試験は面接、一般試験は英語I・小—選抜状況—

論文のそれぞれの科目と調査書審査等により行われ、推薦・一般試験併わせて87名が受験しました。又、編入学試験は英語と面接により行われ2名受験しました。合格者の発表は、3月27日(水)に行われました。

	募 集 人 員	志 願 者	受 験 者	欠 席 者	合 格 者
一 般	100	40 (6)	36 (5)	4 (1)	33
推 薦		56	56	0	50
合 計	100	96 (6)	92 (5)	4 (1)	83

(注) ()内は推薦入学試験の不合格者を内数で示す。

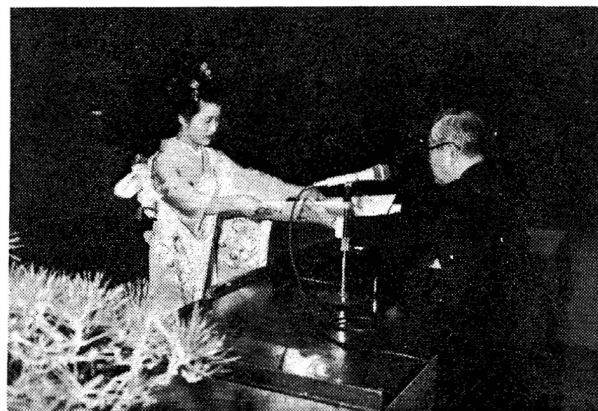
昭和59年度富山大学卒業証書、修了証書並びに修士学位記授与式の挙行

昭和59年度の富山大学卒業証書、修了証書並びに修士学位記授与式は、3月25日(月)午前10時から富山市公会堂において挙行され、証書授与に先立ち、本学フィルハーモニー管弦楽団による演奏が行われました。

当日は風が強く肌寒さを感じたが天候は良く、式終了後の公会堂前では各クラブの後輩たちによる胴上げ、記念撮影などが見られ、引き続き各学部ごとの卒業記念祝賀会が各会場で執り行われました。

また、午前11時から公会堂別館301会議室において名誉教授との懇談会が開催され、柳田学長から最近における本学の状況等について説明があった後、それぞれ出席の名誉教授から個々の近況などについて懇談がなされ、和やかな雰囲気うちに終了しました。

なお、大学院の学位記を授与された者は次のとおりです。



昭和59年度富山大学大学院理学研究科 (修士課程) 修了者

専 攻	入学年度	氏 名	論 文 題 名
数 学 専 攻 (3名)	昭和57年度	當 金 一 郎	Spinor Genus について
	昭和58年度	市 川 隆 一	Formally Real Field における Ordering
	"	吉 村 正 夫	差分方程式の解析的研究
物 理 学 専 攻 (3名)	"	岡 本 佳 子	トップクォークとその反粒子の ³ S結合状態の予想される性質について
	"	小 島 由 樹	電子顕微鏡法による結晶構造の研究 —Ag-Te合金系の 結晶構造と成分比依存性—
	"	高 木 瞬 司	グラファイト層間化合物の作製と電子構造の研究

化学専攻 (8名)	昭和58年度	井上直哉	Pt/TiO ₂ による水の光分解及び同位体効果
	"	川原久和	2~3の結晶の振動解析
	"	高倉忠和	ステロイド骨格の新合成法
	"	田淵均	アニリン誘導体のスペクトルに及ぼす溶媒効果
	"	中田哲也	交差共役系大環状化合物の合成
	"	役田剛	ウラニル-PADAP錯体の生成に及ぼす界面活性剤の影響
	"	山田稔	ベンゾフロキノリン誘導体の合成
	"	和田浩二	ストリップングボルタンメトリーによるウラン(VI)の定量
生物学専攻 (4名)	"	佐原正二	メダカ卵におけるカドミウム毒性の研究
	"	志村隆二	硬骨魚の鰓後腺とスタニウス小体の働き
	"	荘司和明	Cytological studies on fusion and regeneration in isolated sesame protoplasts
	"	高井勉	葉緑体電子伝達反応におけるウスニン酸の阻害作用について
地科学専攻 (3名)	"	佐々木政幸	完新世堆積物から求めた古地磁気強度の変動
	"	谷祐史	Dissipation of stress in the oceanic lithosphere : Evidence for the oceanic intraplate earthquakes
	"	堀美香	斑岩銅鉱床の成因に関する地球化学的研究

昭和59年度 富山大学大学院工学研究科（修士課程）修了者

専攻	入学年度	氏名	論文題名
電気工学専攻 (7名)	昭和58年度	荒木義孝	電子銃電子軌道の有限要素シミュレーション
	"	飯野弘典	光音響効果における信号処理方式
	"	加藤秀雄	単相交流リニアアクチュエータに関する研究
	"	坂口嘉之	心臓核医学における診断精度の向上に関する研究 —新しい 膈壁運動の定量評価法の 開発—
	"	竹内和彦	超音波ハイパーサーミアの有限要素シミュレーション
	"	中村史郎	プロトプラストの細胞融合における電界効果
	"	成田誠	コオロギの発音に關与する神経信号発生器の同定
工業化学専攻 (5名)	"	大川浩志	還元アルキル化法によるKairan炭の可溶化成分の研究
	"	坂井幸生	新アルキル化法による石炭の可溶化
	"	畝雄二	2-(5-ウラシル)エチレンスルホンアミド及び関連誘導体の合成
	"	中川浩一	ベンゾ[e]シクロヘプタ[a]フェナレン-5, 14-ジオンの合成

	昭和58年度	宮本和幸	多環芳香族化合物の還元メチル化反応 — 4環, 5環モデル化合物よりの生成物の分析と反応機構 —
金属工学専攻 (9名)	"	浅井吉夫	Al合金の加工硬化に関する研究
	"	有川正	バッテリー・スライムの湿式処理プロセスに関する研究
	"	浦濱正和	発生ガス分析法によるCaO, CoFe ₂ O ₄ のC還元に関する研究
	"	久保孝	純鉄中の水素のトラッピングに関するトリチウムシミュレーション
	"	越本晋弘	Al-Mg合金鑄塊における羽毛状晶の生成に関する研究
	"	藤井伊佐夫	軸受鋼の球状化熱処理と高温, 高速, 高荷重転動疲労破壊
	"	増田淳	Cu-Zn系合金の低温焼鈍による相分解について
	"	山崎善夫	炭酸ガス雰囲気における鉄-ニッケル合金の粒界選択酸化に関する研究
	"	山本明	D2EHPAによる鉄の溶媒抽出に関する研究
機械工学専攻 (3名)	"	奥田昌弘	平行軸まわりに回転する正方形管内の流れ
	"	丹保七朗	垂直円柱と平板の干渉
	"	法利信幸	非定常熱線法による低温域での断熱材の熱伝導率に関する研究 (低温測定装置の作製と数種の断熱材の選別)
生産機械工学専攻 (3名)	"	木村修	急冷凝固7475系合金板の結晶粒組織と超塑性特性に関する研究
	"	崎田俊典	三次曲面の創成法を応用した精密ハイポイドギヤの歯切りに関する研究
	"	嶋恒司	ステンレス鋼の加工度の変化が研削残留応力に及ぼす影響に関する研究
化学工学専攻 (6名)	"	荒居真二	ISEによる固体膜の機能性評価
	"	石井弘幸	液体膜分離操作に基づく銅〔II〕イオンの濃縮
	"	澤田裕功	ニッケル鉱石浸出液の処理 — 浸出液からの硫酸マグネシウムの回収 —
	"	釣昌司	石炭・水スラリー中の石炭の選択的湿式造粒
	"	樋口啓二	湿式フェライト法によるマグネタイトの生成とORP挙動
	"	二上憲治	もみの乾燥機構と内部応力
電子工学専攻 (8名)	"	浅井誠	Si(100)面におけるGe蒸着膜のヘテロエピタキシャル成長の研究
	"	荒木秀教	電子エネルギー損失分光法によるGaSe, InSeの表面状態の研究
	"	老松敏雄	銀蒸着膜に吸着した色素の光学的性質の研究
	"	高橋伸治	強誘電性液晶の配向制御
	"	中田昌弘	DLTS法によるZnS(Mn)EL薄膜のトラップ準位の測定
	"	藤田優	イオン化蒸着法によるZnS(Mn)EL薄膜の製作とその特性
	"	保科徹	垂直磁気記録再生方式の研究
	"	山戸敏男	直線状アンテナの電流分布と放射について

昇 任	60. 4. 1	松 本 幸 生	助教授(横浜国立大学工学部)	教授(工学部)	文部大臣
	"	伊 藤 紀 男	助手(工学部)	講師(工学部)	富山大学長
	"	永 井 和	" (京都大学文学部)	助教授(教養部)	文部大臣
	"	稲 田 篤 信	講師(教養部)	" (")	"
	"	中 河 伸 俊	" (")	" (")	"
	"	西 村 清	金沢大学経理部長	事務局長	"
	"	高 久 晴	文部省大臣官房文教施設部計画課専門職員	施設課長	"
	"	松 本 実	庶務部庶務課長	石川工業高等専門学校事務部長	"
	"	平 岡 幸 一	庶務部庶務課課長補佐	高岡短期大学事業課長	"
	"	田 中 昇	人文学部・理学部事務長補佐	教養部事務長	"
	"	高 松 正 雄	庶務部庶務課庶務係長	庶務部庶務課課長補佐	"
	"	石 黒 勝 夫	経理部主計課総務係長	経理部主計課課長補佐	"
	"	島 倉 重 二	施設課企画係長	教育学部事務長補佐	"
	"	本 吉 友 治	教育学部庶務係庶務主任	高岡短期大学総務課総務係長	高岡短期大学長
	"	保 正 邦 久	文部事務官(庶務部庶務課)	" 総務課学務係長	"
	"	北 川 功	庶務部庶務課企画係企画主任	" 会計課用度係長	"
	"	小 林 裕	文部事務官(庶務部庶務課)	" 会計課施設係長	"
	"	江 藤 憲 和	経済学部会計係会計主任	富山工業高等専門学校会計課出納係長	富山工業高等専門学校長
	"	林 清 治	教養部学生係学生主任	" 学生課寮務係長	"
	"	泉 田 享 一	工学部学務係学生主任	富山商船高等専門学校学生課学生係長	富山商船高等専門学校長
	"	松 田 幹 夫	経理部経理課用度係物品管理主任	国立山少年自然の家庶務課会計係長	国立山少年自然の家所長
	"	酒 井 利 満	文部事務官(庶務部人事課)	庶務部人事課給与係給与主任	富山大学長
	"	向 雅 己	文部事務官(厚生課)	厚生課寮務係寮務主任	"
	"	堀 口 勲	文部事務官(人文学部・理学部)	人文学部・理学部庶務係人事主任	"
	"	能 手 哲 治	" (")	" 経理係経理主任	"
	"	堀 和 實	" (")	" 学務係教務主任	"
	"	鹿 島 光 雄	文部事務官(工学部)	工学部管理係管理主任	"
	"	湯 浅 健 一	" (")	" 学務係学生主任	"
	"	大 西 光 男	" (教養部)	教養部学生係学生主任	"
	"	桜 井 雅 和	" (附属図書館)	附属図書館総務係総務主任	"
"	門 前 剛 二	" (教育学部)	経営短期大学部総務係総務主任	富山大学経営短期大学部学長	
転 任	"	中 村 進	筑波大学病院部総務課職員係長	庶務部庶務課企画係長	富山大学長
	"	中 川 巖	富山工業高等専門学校会計課総務係長	人文学部・理学部用度係長	"
	"	林 征 紀	国立山少年自然の家庶務課会計係長	工学部管理係長	"
	"	瀬 川 慶 之	富山商船高等専門学校学生課教務係長	教養部教務係長	"
	"	桶 喜 一	庶務部庶務課企画係長	高岡短期大学会計課司計係長	高岡短期大学長

転任	60. 4. 1	地崎昇	経営短期大学部総務係総務主任	経済学部会計係会計主任	富山大学長
	"	高尾邦彦	文部事務官(富山工業高等専門学校庶務課)	文部事務官(庶務部庶務課)	"
	"	小路隆	文部事務官(富山医科薬科大学 義部 研徳力課研究企 画)	" (工学部)	"
	"	小林雄二	文部事務官(附属図書館)	文部事務官(経営短期大学部)	富山大学経営 短期学部学長
	"	竹治聰	庶務部庶務課学事調査係研究協力主任	香川大学附属図書館総務係総務主任	香川大学長
	"	安川範昭	文部事務官(教養部)	文部事務官(福井医科大学業務部医事課)	福井医科大学長
	"	山田勇一	文部事務官(経営短期大学部)	" (国立立山少年自然の家庶務課)	国立立山少年 自然の森長
配置換	"	長沼忠兵衛	教授(人文学部)	教授(三重大学人文学部)	文部大臣
	"	渡邊英二	" (教育学部)	教授(上越教育大学教育学部)	"
	"	三塚正臣	" (")	" (金沢大学教育学部)	"
	"	樋口昭夫	一橋大学入学主幹	庶務部庶務課長	"
	"	阿部均	福岡教育大学厚生課長	学生課長	"
	"	樋口信篤	学生課長	京都工芸繊維大学学生課長	"
	"	小林武	高岡短期大学総務課長	工学部事務長	"
	"	永森俊夫	教育学部事務長補佐	人文学部・理学部事務長補佐	"
	"	泉三郎	人文学部・理学部庶務係長	庶務部庶務課庶務係長	富山大学長
	"	山岸長幸	経理部経理課用度係長	経理部主計課総務係長	"
	"	松下義春	経理部経理課給与係長	" " 管財係長	"
	"	田中祥男	人文学部・理学部経理係長	" 経理課出納係長	"
	"	刈賀春樹	経理部経理課出納係長	" " 給与係長	"
	"	井城小三郎	経理部主計課管財係長	" " 用度係長	"
	"	村中一男	工学部管理係長	施設課企画係長	"
	"	本澤健二	工学部学務係長	学生課教務係長	"
	"	横山正弘	附属図書館総務係長	学生課学生会館係長	"
	"	御福隆	厚生課保健係長	厚生課厚生係長	"
	"	黒田芳雄	厚生課寮務係長	厚生課保健係長	"
	"	角井與志雄	経済学部学務係長	" 寮務係長	"
	"	清水寛	人文学部・理学部学務係長	人文学部・理学部庶務係長	"
	"	湊馨	" 用度係長	" 経理係長	"
	"	近岡忠夫	学生課学生会館係長	" 学務係長	"
	"	高森諺	教養部教務係長	教育学部学務係長	"
	"	渡邊國男	厚生課厚生係長	教育学部附属学校第一係長	"
	"	杉林昭子	学生課教務係長	経済学部学務係長	"
	"	奥村行夫	教育学部学務係長	工学部学務係長	"
	"	東敏	教育学部附属学校第一係長	附属図書館総務係長	"
	"	矢後和子	庶務部人事課給与係給与主任	庶務部人事課職員係職員主任	"

配 置 換	60. 4. 1	東 仙 博	教養部会計係会計主任	経理部経理課用度係物品管理主任	富山大学長
	"	谷 口 和 則	庶務部人事課職員係職員主任	教育学部庶務係庶務主任	"
	"	中 村 義 浩	文部事務官(経済学部)	文部事務官(庶務部庶務課)	"
	"	朝 野 真	" (庶務部庶務課)	" (" 人事課)	"
	"	能 波 輝 之	" (経理部主計課)	" (学生課)	"
	"	寺 林 忠 男	文部事務官(人文学部・理学部)	" (")	"
	"	武 本 光 雄	文部事務官(工学部)	文部事務官(人文学部・理学部)	"
	"	平 野 美 智 子	" (教育学部)	" (")	"
	"	長 田 昭 夫	" (庶務部庶務課)	文部事務官(教育学部)	"
	"	羽 広 孝 司	文部事務官(人文学部・理学部)	" (")	"
	"	北 村 均	" (")	" (経済学部)	"
	"	田 中 正 博	" (")	" (")	"
	"	永 田 義 則	文部事務官(学生課)	" (工学部)	"
	"	北 角 政 信	" (経済学部)	" (教養部)	"
	"	石 川 裕 史	" (学生課)	" (")	"
"	高 瀬 サチ子	文部技官(工学部調理員)	用務員(工学部作業員)	"	
併 任	60. 3. 31	野 村 昇	教授(教育学部)	教育学部長・評議員(60. 3. 31~62. 3. 30)	文部大臣
	"	"	" (")	評議員の併任を解除する	"
	"	大 澤 欽 治	" (")	評議員(60. 3. 31~60. 5. 31)	"
	60. 4. 1	川 上 重 信	文部事務官(経済学部)	学生課	富山大学長
	"	藤 井 伸 市	用務員(経済学部作業員)	経営短期大学部	富山大学経営 短期大学部学長
"	中 村 進	庶務部庶務課企画係長	高岡短期大学	高岡短期大学長	
職 務 命 令	"	保 正 邦 久	文部事務官(庶務部庶務課)	庶務部庶務課企画係教務企画主任を免ずる	富山大学長
	"	小 林 裕	文部技官(庶務部庶務課)	" " " 施設企画主任を免ずる	"
	"	清 水 良太郎	文部事務官(施設課)	施設課企画係企画主任を命ずる	"
	"	堀 口 勲	文部事務官(人文学部・理学部)	人文学部・理学部庶務係人事主任を免ずる	"
	"	能 手 哲 治	" (")	" 経理係経理主任を免ずる	"
	"	山 田 知 訓	" (")	" 学務係学務主任を命ずる	"
	"	佐久間 克 明	文部事務官(教育学部)	教育学部会計係用度主任を命ずる	"
	"	柴 田 利 治	" (")	" 学務係厚生主任を命ずる	"
	"	羽 広 孝 司	" (")	教育学部附属学校第一係会計主任を命ずる	"
	"	池 田 勇	" (附属図書館)	附属図書館参考係参考主任を命ずる	"
	"	高 安 芳 枝	文部事務官(庶務部庶務課電話交換手)	庶務部庶務課電話交換手長を命ずる	"
	"	永 盛 祐 介	文部技官(経理部経理課自動車運転手)	経理部経理課総括車庫長を命ずる 経理部経理課車庫長を免ずる	"
	"	植 吉 和 政	" (")	経理部経 理車庫長を命ずる 経理部経理課副車庫長を免ずる	"
"	山 崎 忠 吉	文部技官(施設課汽かん士)	施設課汽かん士長を命ずる	"	

職務命令	60. 4. 1	太 田 久 則	文部技官(教育学部調理士)	教育学部調理士長を命ずる	富山大学長
辞 職	60. 3. 31	浅 田 實	教授(教育学部)	辞職を承認する	文部大臣
	"	尾 島 啓 子	助手(経済学部)	"	富山大学長
	"	小 林 正 幸	助教授(教養部)	"	文部大臣
	"	舟 杉 博 稔	教頭(教育学部附属養護学校)	"	"
	"	中 谷 隆 一	教諭(教育学部附属小学校)	"	富山大学長
	"	沖 田 昭 夫	" (" ")	"	"
	"	寺 岡 清	" (" ")	"	"
	"	島 原 一 清	" (" 附属中学校)	"	"
	"	阿 部 美知夫	" (" ")	"	"
	"	川 辺 頼 子	" (" 附属養護学校)	"	"
	"	中 川 光 栄	" (" 附属幼稚園)	"	"
退 職	"	川 上 芳 夫	事務局長	昭和56年法律第77号附則第3条の規定により昭和60年3月31日限り退職	文部大臣
	"	前 島 健 治	施設課長	"	"
	"	高 松 平 吉	工学部事務長	"	"
	"	野 村 信 生	教養部事務長	"	"
	"	青 山 晶 子	養護教諭(教育学部附属小学校)	"	富山大学長
	"	大 場 文 子	文部事務官(庶務部庶務課電話交換手)	"	"
	"	松 原 薫	文部技官(厚生課看護婦)	"	"
	"	福 村 文 吾	用務員(工学部警務員)	"	"
	"	石 田 文 治	文部事務官(工学部警務員長)	"	"
	"	新 開 純 子	技術補佐員(経理部主計課)	昭和60年3月30日限り退職した	"
	"	浅 畑 美香子	事務補佐員(教養部)	"	"
	"	見 村 敏 子	" (附属図書館)	"	"
	60. 4. 1	高 橋 幸 一	教授(工学部)	昭和60年3月31日限り停年により退職した	文部大臣
	"	梅 原 隆 章	" (教養部)	"	"
	"	黒 田 智 子	臨時用務員(工学部作業員)	昭和60年3月31日限り退職した	富山大学長
	"	青 山 万里子	事務補佐員(工学部)	"	"
	"	澁 谷 喜久子	" (")	"	"
	"	岡 畑 京 子	" (")	"	"
	"	松 原 孝 則	臨時用務員(工学部作業員)	"	"
	"	村 岡 清 忠	" (")	"	"
"	山 口 典 子	事務補佐員(教養部)	"	"	
"	石 丸 茂 雄	教務補佐員(")	"	"	
"	関 衣美子	事務補佐員(附属図書館)	"	"	
"	高 森 聖 子	" (経営短期工学部)	"	富山大学経営短期学部学長	

学 内 諸 報

人文学部長の改選

楠瀬 勝人文学部長の任期が、昭和60年5月1日に満了することに伴い、人文学部教授会は3月11日に次期学部長候補者の選挙を行った。その結果、楠瀬 勝

現学部長が再選されました。任期は、昭和60年5月2日から2年間。

学生部長の改選

本田 弘学生部長の任期が、昭和60年5月8日に満了することに伴う次期学生部長候補者の選考は、3月12日開催の評議会において教務委員会及び補導協議会

の合同委員会から推薦のあった3名の本学教授のうちから投票によって行われ、本田 弘現学生部長が再選されました。任期は、昭和60年5月9日から2年間。

客員教授 名称付与

本学名誉教授竹内豊三郎先生には、富山大学客員教授選考基準（昭和58年6月17日制定）に規定する客員教授として、昭和60年4月1日から昭和61年3月31日

までトリチウム科学センターで「合金を用いたトリチウムの濃縮・分離の研究」に従事されることになりました。

富山新聞文化賞について

去る3月11日、昭和60年度富山新聞文化賞が本学学長柳田友道に授与されました。

学長の長年にわたる学術研究上の功績に加え、学長に就任以来懸案とされていた工学部の五福キャンパス

への移転統合を実現に導くとともに、高岡短期大学創設準備室長として地域社会に開かれた特色ある同大学を設置した功績等が高く評価されたことによるものであります。

文部省永年勤続者表彰

昭和59年度退職時の文部省永年勤続者として、本学から次の方々が表彰されました。

事務局長	川上 芳夫
施設課長	前島 健治
工学部事務長	高松 平吉

退職（予定）者を囲む懇談会

昭和59年度に勸奨により退職された方々並びに停年（定年）により退職される方々を囲む懇談会が、去る3月15日（金）11時から事務局大会議室において開催されました。

懇談会に先立ち、記念品の贈呈、学長あいさつ、退職（予定）者代表の謝辞、記念撮影が行われたあと懇談会に入りました。

懇談会は、終始和やかな雰囲気のうちに行われ学長はじめ各部局長等から、永年の労がねぎらわれました。

なお、退職（予定）者は次のとおりです。

事務局長	川上 芳夫	庶務部	大場 文子
施設課	前島 健治	学生部	松原 薫
教育学部	青山 晶子	教育学部	嶋 作 恭子
教育学部	成瀬 正夫	工学部	高橋 幸一
工学部	高松 平吉	工学部	石田 文治
工学部	福村 文吾	教養部	梅原 隆章
教養部	野村 信生	附属図書館	田中 崇子



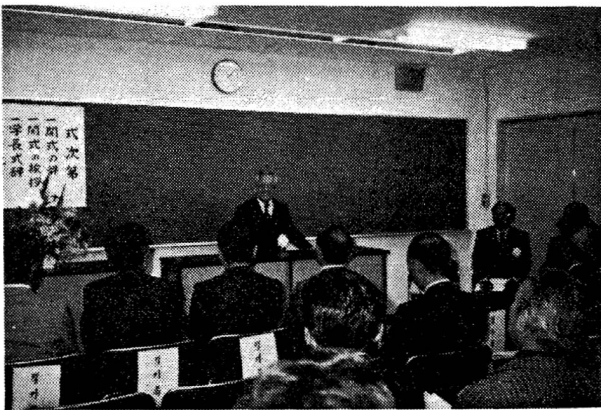
海 外 渡 航 者

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
外国出張	人文学部	教 授	山口 博	中華人民共和国	日本文学に関する研究及び指導のため	60. 3. 30 } 61. 3. 29
	教育学部	”	田中 晋	アメリカ合衆国 カ ナ ダ	甲殻類枝角目の分類及び生態学的研究のため	60. 3. 19 } 61. 1. 18
海外研修旅行	経営短期 大学部	助教授	佐藤良一	アメリカ合衆国	ニュー・スクール主催のコンファレンスに出席のため	60. 3. 25 } 60. 4. 1
	”	”	篠原 巖	ドイツ連邦共和国	西ドイツ・ボン基本法下の人権論の理論史を研究するため	60. 4. 1 } 60. 9. 30

情報処理センターの開所式

富山大学情報処理センターの開所式は、去る3月19日(火)午前11時から同センター会議室で関係者多数が出席して行われました。

まず、同センター長川井教授(理学部)から「当センターは、学長・事務局長をはじめ、多くの方々のご尽力、ご高配により設置されたもので、優れた機能のハードウェアと充実したソフトウェアが、学術研究と学生実習の広い分野で、非常に便利に利用できるようになっている」とのお礼の言葉があり、続いて柳田学長から、「本センターはセンター長をはじめ、全学教職員が一丸となって、強力な熱意によって設立されたものであり、他の国立大学には見られない最近の設備を



そなえている。これからはその意欲を教育研究面に向けられ、これを大いに利用することによって更に更に発展させていただきたい。」との式辞が述べられました。また、前島施設課長から、工事の概要が述べられた後、中沖富山県知事、丹羽京都大学大型計算機センター長、土方電気通信大学情報処理センター長からよせられた

祝電が披露されて、式典は盛況のうちに終了しました。

引き続き、川井センター長から同センターの概要について説明があったのち、列席者が計算機室に入り、全員注視のもとで情報処理システムへの通電が柳田学長により行われました。その後、列席者は数班に分かれて、山野井助教授(教育学部)、菊田助教授(経済学部)、中川助手と松原助手(理学部)、山淵助教授、五嶋助教授と長谷助手(工学部)、市村助手(トリチウム科学センター)と高井業務主任(情報処理センター)の案内のもとに、カラーグラフィックシステム、設計・製造支援システム I C A D、英論文編集清書システム、日本語文書処理システム、イメージ処理システム、情報検索システムと大学間ネットワークデータベース構築システム、高速日本語ラインプリンタによる図形出力、X Yプロッタ、光学文字読取装置などによる最新の情報処理技術の応用例を感銘深く視察されました。

なお、同センターは、学術研究と教育のための情報処理サービス及び附属図書館の業務電算化を目的とし、昭和59年度に、旧計算機センターの大巾な増改築と学内光通信ネットワークの敷設等の工事を行ったもので、1階には、主として学術研究で利用する機器が、2階には、主機システムと主に学生実習で利用する機器が配置されており、また、附属図書館には多機のパーソナルコンピュータが配置されています。

なお、同センターの利用あるいは見学を希望される場合は、同センター受付(内線 663)に照会ください。

昭和59年度全国公務員レクリエーション共同事業 富山地区ボーリング大会

昭和59年度全国公務員レクリエーション共同事業富山地区ボーリング大会が、去る3月16日(土)トヤマゴールデンボールにおいて、富山営林署の当番で開催されました。

競技は午後1時40分から始まり、3ゲームによる合計得点数によって団体戦及び個人戦の順位を決定する方法で実施されました。

本学からは、5チーム15名が参加し、Aチームが次

勝となりました。

なお、成績は次のとおりです。

団体戦

優勝 富山食糧事務所Aチーム

次勝 富山大学Aチーム

三位 富山地方検察庁Aチーム

個人戦

次勝 山田知訓(富山大学人文学部・理学部)

財団等による研究助成関係

名 称	対 象 分 野	対 象 者	助 成 金 額	募 集 件 数	通 知 時 期
松前国際友好財団 外国人研究者招へい	自然科学・医学・工学優先	外国国籍を有し次の各号に該当する者 ①博士課程修了者又はそれに準ずる者 ②40歳以下の者 ③英語又は日本語の会話能力を有する者	○招へい期間 3月以上6月以下 ○往復航空賃 ○来日一時金(30万円) ○研究奨学金 (月額20~30万円) ○旅行者保険	20名	4月
伊勢丹奨学会商業 経済研究助成	国民生活の向上と商業の発展に寄与する研究	大学又はこれに準ずる機関に在籍し、研究に従事している教授、助教授及び研究生もしくはそのグループ	○総額 200万円	1~2件	4月
マーケティング研究助成 (日本マーケティング協会)	A. 個人の部 1.マーケティングの国際化 2.サービスマーケティング 3.ダイレクトマーケティング B. グループの部 我が国におけるマーケティング活動の成熟度に関する調査・研究	大学(短大を含む)に所属し、マーケティング分野の研究にたずさわる40歳以下の助教授・講師・助手又は大学院博士課程在学中の学生 グループ研究は3名以上	○1件につき A. 10万円 B. 50万円	A. 5件 B. 1件	4月
研究助成金 (田村科学技術振興財団)	科学技術に関する研究・開発の助成及び振興を図り、富山県の産業の発展と福祉の増進に寄与するもの	対象となる研究を行なう研究機関又は研究者	○総額 800万円 A. 研究助成 1件につき 100~200万円 B. 外国人研究者の招へい、受入れ及び学術交流集会の授助 1件につき 50万円	A. 5件 B. 2件	4月
研究活動及び設備等助成金 (富山相銀奨学育英財団)	制限なし	富山県内に所在する大学、短期大学及び高等学校	○大学に対して 総額 100万円		4月
伊藤科学研究助成金 (伊藤科学振興会)	化学、地学、生物学	大学の助教授、講師、助手及び大学院博士課程在学中の学生並びにこれに準ずる者又はこれらにより構成される団体もしくは研究機関	○1件につき 100万円以内	12件	4月
社会科学国際フェロシップ (国際文化会館)	①社会科学一般 ②発展途上国研究 ③アメリカ研究	①大学・研究機関等に在籍する研究者 ・男性の場合は35歳未満 ・外国の大学院を修了した者及び最近3年間に継続して1年以上外国に滞在した者は資格がない。 ・外国の大学での学位取得を目的としないこと。 ②制限なし ③①と同じ	○外国の大学・研究機関等に2年間在籍し、必要な経費を全額支給	数名	5月
国際通信研究奨励金 (KDDエンジニアリング・アンド・コンサルティング)	国際電気通信に関する基礎的又は応用的調査研究	制限なし	○総額 3,500万円	10件程度	5月
岩谷科学技術助成金	資源、エネルギー及び環境等に関する独自の研究開発	個人又はグループで現に研究開発に従事するか又は具体的に研究着手の段階にあり、成果が2、3年以内に期待されるもの	○総額 3,000万円 ○1件につき 400万円以内	10~15件	5月

赤井録音録画技術 研究助成	直接録音録画技術に 関するもので、独創 的で将来性があり、 実用化が期待される もの	日本国内の大学研究室及び公益研 究機関に勤務する者	○総額 1,000万円 ○1件につき 200万円以内	5～10件	6月
調査研究助成 (日本住宅総合セ ンター)	国内、国外の住宅問 題、都市問題、土地 問題、省エネルギー 問題を含む次の部門 1. 社会、経済、経営 に関する部門 2. 法律及び制度、政 策に関する部門 3. 住宅、都市の計画 に関する部門 4. 住宅の建設及び技 術開発に関する部門	○大学及び大学付属研究機関の個人 又はグループ研究者 ○その他の研究機関における個人 又はグループ研究者	○総額 3,000万 ○1件につき 200万円以内		6月
朝日賞 (朝日新聞社)	学術、芸術、科学技 術、社会福祉、体育 その他あらゆる分野	各分野で傑出した業績をあげ、我が 国の文化、社会の発展と向上に 多大の貢献をした個人又は団体	○1件につき 100万円 (副賞)		6月
A P I C論文・研 究プロジェクト (国際協力推進協 会)	1. 開発途上国への国 際協力に関する理 論的・実証的研究 2. 開発途上国への国 際協力政策に関する 研究 3. 国際協力に伴なう 政治・経済・社会 ・文化への影響に 関する研究 4. 国際協力について の日本の国民的理 解に関する研究	制限なし	A. 論文 1件につき 20～100万円 B. 研究プロジェクト 1件につき 50万円	A. 6件以内 B. 2件程度	8月
二十一世紀文化学 術財団学術奨励金	1. 自由企業体制の特 来展望 2. 政府の経済的機能 と民間経済活動へ の関わり 3. 科学技術の発展と 社会 4. 日本の社会的文化 的特性と国際社会	経済、社会、文化の諸分野の学術 研究に従事している者	○総額 3,500万円 ○1件につき 100～500万円		10月
工藤学術財団 A. 研究費補助 B. 褒賞 C. 研究成果発 表補助	自然科学分野	○理学部、工学部、医学部、農学 部及びその他自然科学部門及び付 属研究所等に籍を置く個人研究者 及び団体 ○Aについては45歳未満の者	A. 総額 500万円 B. " 50万円 C. " 50万円	A. 8～10件 B. 1件 C. 1件	10月
研究助成 (吉田秀雄記念事 業財団)	マーケティング、特 に広告に関する重要 かつ独創的な研究	A. 大学に所属する助手以上の研 究者 B. 大学院生	A. 総額 2,000万円 1件につき 個人 50万円以内 グループ 200万円以内 B. 総額 300万円 1件につき 30万円以内		10月
環境賞 (環境調査センタ ー、日刊工業新 聞社)	環境保全に関する科 学技術の調査、研究 開発で画期的な具体 的成果を挙げ、又は 成果が期待されるも の	個人又はグループ	○環境庁長官賞 100万円(副賞) ○優良賞 50万円(副賞)	5件程度	11月

藤原賞 (藤原科学財団)	自然科学分野	我が国の国籍を有し、科学技術の発展に卓越した貢献をした者	○1件につき 1,000万円 (副賞)	2件	11月
とやま賞 (富山県置県百年 記念財団)	富山県の将来を担う 前途有為な人材の育 成に資する。	次の各号に該当する個人又は団体 A. 学術研究、発明、芸術文化ス ポーツなどの分野においてすぐ れた業績をあげたもの B. 富山県出身又は富山県内在住 のもの	制限なし		11月
朝日学術奨励金 (朝日新聞社)	制限なし	制限なし	制限なし		12月
学術奨励金 (三島海雲記念財 団)	○自然科学部門 食品に関連する農 学、畜産学、水産学、 食品学、栄養学、醸 酵学、微生物学、生 化学 ○人文科学部門 哲学、史学、文学 及び政治学、経済学 等社会科学に関する 理論的及び歴史的研 究(実態調査を除く。)	A. 機関援助金 各大学に所属する学部及び研究 所又は研究代表者を中心とする学 内研究室及びそれに準ずる研究機 関 B. 研究者奨励金 研究者個人に対する奨励金であ るが、協力者のあることを妨げな い。	○1件につき 40～100万円		1月
助成・援助 (電気通信普及財 団)	○電気通信に関する 法律、経済、社会文 化的研究調査 ○電気通信技術に関 する普及、振興 ○電気通信を利用し た福祉、文化事業 ○電気通信に関する 学術交流及び国際協 力	制限なし	制限なし		1月
日加研究賞 (カナダ政府)	カナダについての又 は日加関係の何らか の側面に関する独創 的研究	すべての日本の大学及び民間研究 機関	総額 5万カナダドル		1月
研究調査助成 (日本証券奨学財 団)	法律学、経済学、社 会学、理学、工学	大学において学術文化の研究調査 に従事している個人又はグループ で55歳以下の者	○総額 3,000万円 ○1件につき 100～400万円	20数件	3月
研究助成 (日本生命財団)	人間活動と環境保全と の調和に関する研究	制限なし	制限なし		3月
研究活動助成 (庭野平和財団)	○宗教協力に関する 研究 ○現代における宗教 の役割に関する研究 ○平和を阻害する諸 要因に対する宗教的 アプローチに関する 研究 ○科学と宗教・倫理 に関する研究 ○地域レベルでの宗 教協力活動 ○生命操作と宗教・ 倫理に関する研究	制限なし	○総額 2,000万円 ○1件につき 100万円以内		3月

職 員 消 息

《新任者》

事務局長 西村 清

庶務部

庶務課長 樋口 昭夫

企画係長 中村 進
(庶務課)

文部事務官 高尾 邦彦
(庶務課庶務係)

経理部

文部事務官 村道 俊一
(主計課総務係)

施設課

施設課長 高 久晴

学生部

学生課長 阿部 均

人文学部

教 授 川本榮一郎
(国語学)

助 教 授 河村 貞枝
(西洋史学)

人文学部・理学部

用度係長 中川 巖

文部事務官 西村 孝司
(用度係)

文部事務官 高木 晃
(学務係)

教育学部

教 授 中村 宗彦
(国語学)

講 師 室橋 春光
(障害児心理)

教 頭 宮 新照
(附属養護学校)

附属小学校教諭 城野 義明
(国 語)

附属小学校教諭 水上 義行
(社 会)

附属小学校教諭 松浦 清志
(体 育)

管理係長 林 征紀

附属小学校 坂井 幸子
養護教諭

文部事務官 小路 隆
(器 係)

附属中学校教諭 寺井 誠
(理 科)

臨時用務員 石田 文治
(管理係)

附属中学校教諭 松田 真治
(美 術)

臨時用務員 北角 昭三
(管理係)

附属養護学校教諭 盤若 一樹

附属養護学校教諭 本田 京子

教 養 部

助 教 授 永井 和
(歴史学)

附属幼稚園教諭 百塚 睦子

講 師 小柳津広志
(生物学)

経済学部

講 師 武田紀代恵
(財産法)

教務係長 瀬川 慶之

助 手 森岡 裕
(国際経営論)

文部事務官 船崎 浩之
(学生係)

文部事務官 森田 智
(学務係)

教務補佐員 林 英明
(化 学)

教務補佐員 井波外志子
(化 学)

工 学 部

教 授 松本 幸生
(制御機器)

附属図書館

事 務 長 小林 武

文部事務官 岡畑 京子
(総務係)

事務補佐員 山橋 美香
(整理係)

助 教 授 氏家 治

経営短期大学部

事務補佐員 三井 麗子
(図書室)

工 学 部

文 部 技 官 本崎 剛

《住所変更》

人文学部

助 教 授 藤本 幸夫

教 養 部

助 教 授 八木 保夫

講 師 湯川 純幸

教育学部

助 教 授 山野井敦徳

《住所表示変更》

教育学部

附属小学校教諭 老月 敏彦

経済学部

助 教 授 泉田 榮一

文部事務官 中田 節子

教 養 部

庶 務 主 任 松井 博文

理 学 部

助 教 授 岡部 俊夫

—職員会館の宿泊の御案内—

- ◎利 用 日……土・日曜日及び祝日も利用できます!!
- ◎申し込み……利用日の2日前までに!!
- ◎門限時刻……午後10時 ……御協力を……!!

理 学 部

- 3月11日 教授会
理学研究科委員会
- 22～25日 物理学科第2次募集入学願書受付
- 25日 学部卒業証書並びに理学研究科修士学位記授与式
(於 理学部第10講義室)
- 26日 入学者選抜調査書審査(第2次募集)
- 29日 教授会
研究科委員会
人事教授会

工 学 部

- 3月8日 選考委員会
- 11日 教授会
工学研究科委員会
専任教授会
- 15日 学部構内交通対策委員会

教 養 部

- 3月6日 人事教授会
教授会
- 20日 予算委員会
補導委員会
教授会

附 属 図 書 館

- 3月8日 富山県図書館職員研修会(於 県立図書館)
- 11日 電算化ワーキンググループ打合せ
- 18日 係長事務打合せ
- 28日 情報処理センター・図書館・富士通SEとの打合せ

保健管理センター

- 3月
- 2～4日 北陸地区国立五大学合同健康増進合宿セミナー
(於 極楽坂スキー場 やまふじ山荘)
- 4日 富山大学入学者選抜健康診断

経営短期大学部

- 3月7日 第8回財務委員会
第16回教授会
- 8～14日 一般入学願書受付
- 14日 第9回財務委員会
- 17日 経営短期大学部入学者選抜試験
編入学者選抜試験
- 18日 第6回入学者選抜学力試験委員会
- 22日 第17回教授会
- 23日 卒業予定者と在学生及び教職員との懇談会
- 25日 経営短期大学部卒業証書授与式
(於 富山ステーションホテル)
- 27日 経営短期大学部合格者発表

◎ 退庁、退室の際には、戸締りの徹底・電気、ガスの消し忘れ、タバコの吸殻の後始末に十分注意し、盗難の防止・火災の予防に心がけましょう!!

◎ 電気、ガス、水の省エネ・省資源に協力しましょう!!

昭和60年度授業日程表

学部等	学年	前 学 期		夏季休業	後 学 期		冬季休業	備 考
		授業(補講を含む。)	期末試験		授業(補講を含む。)	期末試験		
教 養 部	1.2	4/11~7/13 9/2~9/14	9/17~9/30	7/15~8/31	10/15~12/23 61 1/11~2/18	61 2/19~2/27	61 12/24~1/10	
人文学部	2.3.4	4/12~7/11 9/2~9/14		7/12~8/31	10/14~12/21 61 1/10~2/13		61 12/22~1/9	集中講義 7/12~7/20, 9/17~9/21 11/11~11/16, 12/17~12/21 61-2/17~2/21
教育学部	2.3.4	4/5~7/15	7/16~7/22	7/23~8/31	10/21~12/21 61 1/9~2/14	61 2/15~2/21	61 12/22~1/8	教育実習9/2~10/19
経済学部	2.3.4	4/8~7/13 9/2~9/10	9/11~9/20	7/15~8/31	10/14~12/24 61 1/8~2/12	61 2/13~2/21	61 12/25~1/7	オリエンテーション 10/12
理 学 部	2.3.4	4/15~7/13 9/2~9/14		7/15~8/31	10/14~12/21 61 1/13~2/15		61 12/23~1/11	物理学基礎実験7/15~7/20 化学実験9/17~9/24 物 理 実 験 4/8~4/13 地 球 実 験 10/5~10/12
工 学 部	2.3.4	4/12~8/1		8/2~10/17	10/18~12/26 61 1/10~2/20		61 12/27~1/9	
経営短期 大 学 部	1.2.3	4/12~7/20 9/9~9/14	9/17~9/24	7/22~8/31	10/1~12/23 61 1/9~2/1	61 2/3~2/8	61 12/24~1/8	

昭和59年度富山大学学報目録

(第245号 ~ 第256号)

◎学 長 告 辞

- 昭和58年度富山大学卒業式学長告辞…… 第245号
- 昭和59年度富山大学入学式学長告辞…… 第246号

◎関 係 法 令

- 第245号~第256号

◎学 内 規 則

- 富山大学学則の全部改正…… 第245号
- 富山大学学則の一部改正…… 第246号
- 富山大学学則の全部改正に伴う
諸規則の改正…… 第245号
- 富山大学学則の全部改正に伴う
関係規則等を整理する規則の制定…… 第247号
- 富山大学構内交通規制に関する
暫定要項の一部改正…… 第253号
- 富山大学共通第1次学力試験
実施委員会規則の一部改正…… 第253号
- 富山大学公開講座規則の一部改正…… 第246号
- 富山大学当直規則の一部改正…… 第251号
- 富山大学において任用する外国人教員の
任期に関する規則の制定…… 第253号

- 富山大学客員教授選考基準の一部改正… 第245号
- 富山大学教員の停年に関する
規則の一部改正…… 第245号
- 富山大学職員の財産形成年金貯蓄関係
事務取扱要項の制定…… 第250号
- 富山大学受託研究取扱規則の一部改正… 第253号
- 富山大学と民間等との共同研究
取扱規則の制定…… 第252号
- 富山大学と民間等との共同研究
実施細則の制定…… 第252号
- 富山大学国有財産取扱規則の一部改正… 第245号
- 富山大学国有財産使用規則の一部改正… 第245号
- 富山大学防火管理規則の一部改正…… 第245号
- 富山大学における購入物品の
機種選定に関する取扱要項の制定…… 第253号
- 富山大学電気工作物保安規則等の
一部改正…… 第247号
- 富山大学教育学部規則の一部改正…… 第251号
- 富山大学経済学部規則の一部改正…… 第252号
- 富山大学工学部規則の一部改正…… 第249号
- 富山大学教養部規則の一部改正…… 第256号
- 富山大学専攻科規則の制定…… 第245号

- 富山大学情報処理センター規則の制定… 第249号
- 富山大学情報処理センター
利用細則の制定…………… 第254号
- 富山大学経営短期大学部学則の
一部改正…………… 第247号
- 富山大学経営短期大学部教員の
停年に関する規則の一部改正…………… 第246号

◎諸 会 議

- 第245号～第249号, 第251号～第256号

◎学 事

- 学位取得者
……………第245号, 第246号, 第249号, 第252号
- 昭和60年度文部省内地研究員の決定…………… 第256号
- 昭和59年度文部省在外研究員
派遣予定者の決定…………… 第245号
- 昭和59年度科学研究費補助金
交付内定者…………… 第247号
- 昭和59年度科学研究費補助金
申請・採択状況…………… 第247号
- 科学研究費補助金資料…………… 第250号
- 外国政府等からの留学生等の
募集のお知らせ…………… 第245号
- 昭和59年度民間機関等との
共同研究について…………… 第255号
- 昭和59年度富山大学入学試験の
実施状況について…………… 第245号
- 昭和59年度富山大学並びに富山大学
経営短期大学部入学者選抜状況…………… 第245号
- 昭和58年度富山大学並びに富山大学
経営短期大学部卒業式挙行…………… 第245号
- 昭和58年度富山大学大学院並びに
専攻科修了式挙行…………… 第245号
- 昭和60年度大学入学者選抜共通第1次
学力試験受験案内の交付…………… 第250号
- 昭和60年度富山大学入学者選抜に関する
要項を発表…………… 第248号
- 昭和60年度富山大学学生募集要項…………… 第253号
- 昭和60年度共通第1次学力試験の実施… 第255号

◎人 事 異 動

- 第245号～第256号

◎学 内 諸 報

- 教育学部長の改選…………… 第256号
- 教育学部附属中学校長の改選…………… 第245号
- 教育学部附属教育実践研究指導
センター長の選出…………… 第247号
- 経済学部長の改選…………… 第250号
- 理学部長の改選…………… 第256号
- 工学部長の改選…………… 第256号
- トリチウム科学センター長の改選…………… 第256号
- 保健管理センター所長の改選…………… 第249号
- 叙位・叙勲…………… 第246号, 第252号, 第256号
- 名誉教授の称号授与…………… 第246号
- 永年勤続者の表彰…………… 第247号
- 文部省永年勤続者表彰…………… 第253号
- 職員の定年について…………… 第249号
- 退職者を囲む懇談会開催…………… 第245号
- 海外渡航者…………… 第245号～第255号
- 昭和59年度富山大学公開講座
(その1)「健康・スポーツ教室」…………… 第248号
(その2)「現代史に学ぶ」…………… 第249号
- 昭和59年度富山県内国立学校等
事務職員(初任者)研修…………… 第250号
- 第1回富山大学幹部職員懇話会…………… 第250号
- 富山大学職員成人式…………… 第255号
- 建物の新営〈富山大学工学部
機械・金属系校舎等新営工事〉…………… 第247号
- 工学部の移転について…………… 第248号
- 工学部福利施設新営工事…………… 第255号
- 工学部電気・化学系校舎等新営工事…………… 第256号
- 情報処理センターの新営工事について… 第249号
- 情報処理センターの新営その他工事…………… 第253号
- 学内レクリエーション
〈釣大会〉…………… 第249号
〈ソフトボール大会,
見学小旅行(文化部会)〉…………… 第252号
〈野球大会, バドミントン大会,
将棋大会, 教職員文化展〉…………… 第253号
〈麻雀大会, 卓球大会〉…………… 第256号
- 昭和59年度文部省北陸地区
共同行事体育大会…………… 第250号
- 昭和59年度全国公務員レクリエーション
共同事業富山地区
* ソフトボール大会…………… 第251号
* 卓球大会…………… 第253号

○富山共済組合支部連絡協議会
ソフトボール大会…………… 第251号

○南極の近況について…………… 第250号

○富山相銀奨学育英財団及び田村科学技術
振興財団からの助成金について…………… 第248号

○遼寧大学と友好学術交流協定締結…………… 第247号

○本学と遼寧大学との友好学術交流締結に
基づく交流教官の来日について…………… 第251号

○学術講演会の開催…………… 第246号

○第66回東海・北陸地区国立大学
学生部課長会議の開催…………… 第252号

○第20回12大学教養部長・事務長
連絡会議の開催…………… 第251号

○第8回全国大学保健管理協会北陸地区
保健婦・看護婦班研究会の開催…………… 第252号

○健康診断のお知らせ…………… 第250号

○会計検査院の会計実施検査…………… 第247号

○卒業予定者の就職事務について…………… 第247号

○シリーズ「富山大学、あの日の頃」
(7)〈回顧閑談〉…………… 第245号
(8)〈つれづれの思い出〉…………… 第246号
(9)〈学生会館・新樹寮建設に
関する思い出〉…………… 第247号
(10)〈富山、第二の故郷〉…………… 第248号
(11)〈富山大学に望む〉
一工学部に博士課程を一…………… 第254号

○寄 稿
〈ウッズ・ホールと海洋生物学研究所〉… 第248号
〈インドネシアの印象〉…………… 第251号
〈瘴癘の地を旅して〉…………… 第252号
〈カナダの中部平原の町〉…………… 第253号
〈ガンダーラ美術発掘記〉…………… 第255号
〈遼寧大学雑感〉…………… 第255号
〈帰国に当って〉…………… 第255号
〈オハイオ州立大学での

いくつかの印象…………… 第256号

○保健管理センターだより
〈人命は金銭にもかえられる?〉…………… 第249号

◎職 員 消 息
○第245号～第256号

◎主 要 行 事
○第245号～第256号

◎資 料
○昭和58年度卒業（修了）者数…………… 第245号
○昭和58年度卒業生産業別就職状況…………… 第247号
○昭和58年度卒業生地域別就職状況…………… 第247号
○昭和59年度授業日程表…………… 第245号
○昭和59年度学部入学者数…………… 第246号
○昭和59年度大学院入学者数…………… 第246号
○昭和59年度専攻科入学者数…………… 第246号
○昭和59年度経営短期大学部入学者数…………… 第246号
○昭和59年度学部学生数……………第246号， 第252号
○昭和59年度大学院学生数……………第246号， 第252号
○昭和59年度専攻科学生数……………第246号， 第252号
○昭和59年度専攻生，聴講生，研究生数… 第246号
○昭和59年度聴講生，研究生数…………… 第252号
○昭和59年度経営短期大学部
学生数……………第246号， 第252号
○昭和60年度入学志願者数…………… 第256号
○期末手当及び勤勉手当の支給日の
改正について…………… 第245号
○人事院勧告について…………… 第250号
○給与法の改正について…………… 第254号
○昭和58年度富山大学学報目録…………… 第248号
○昭和60年度に開催予定の主要会議
及び大会行事予定表…………… 第253号





編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 中央印刷株式会社
富山市下奥井1-4-5
電話 32-6572代